接1》 已1《バ1》

（已然形の例） バ下接例

・実ヲ論スレハタ、道心ナク（↑也）操行ツタナキニヨツテイタツラニ名利ニハ繫縛セラルヽ也（行持下 四17ウ2・中578）

(218) **和ス**（1例・他ヲ） 用1《テ1》

・古鏡ニアラサル水銀等ヲ和シテ磨スルニアラス（古鏡 四60オ1・上2998）

以上、漢字一字のサ変動詞218語について、用例を若干掲げた。

（つづく）

注1 「正法眼蔵のサ変動詞――その用例(二)――」（『東海学園国語国文』七号、昭50・3）

注2 用例の掲げ方は前稿と同様である。（2例・自）は、この用例が2例で、自動詞であるの意、なほ、「自」のかはりに「他ヲ」などとあるのは、他動詞で、格助詞ヲを支配する用例があるの意。止2（=断止2）はその用例は終止形が2例で、下接語が（ ）内に示してある（この場合は、下接語がなく、そこで断止してゐる例が2例あるの意）。次に用例を掲げ（洗浄十一25オ2・上1134）とあるのは、この例が、「洗浄」巻にあり、乾坤院本第十一冊25丁表2行目、岩波文庫本正法眼蔵上巻113頁4行目にあるといふことを示す。

注3 「正法眼蔵のサ変動詞――その用例(一)――」157頁（『東海学園女子短期大学紀要』九号、昭49・6）

注4 シ（回想助動詞キ連体形）に限り、終止形で標出しない。但し、終止形の場合は、勿論キとする。

注5 一語で自動詞・他動詞を兼ねるものがあるがこれは別語としては扱はない。

注6 「正法眼蔵の語法――漢語サ変動詞について――」（『名古屋大学国語国文学』26号、昭45・7）

(206) **覧ス**（1例・他ヲ）　用1《テ1》
・武帝スナハチ奏ヲ覧シテ欣悦メ使ニ詔ヲモタセテ迎請シタテマツル（行持下　四2ウ9・中41 1）

(207) **乱ス**（1例・他ヲ）　止1《ベシ1》
・自他ノ竿位ヲ乱スヘカラス（洗浄　十一23ウ3・上111 6）

(208) **理ス**（3例・他ヲ）　未1《ラル1》　用2《テ1　動詞1》
（未然形の例）　ラル下接例
・仏祖ハ説法ニ理セラレキタルナリ　（無情　十2ウ2・中269 9）

(209) **立ス**（16例・自3・他13ヲ）　自未1《リ1》　止2《断止1　ベシ1》　他未4《ム3　リ1》　用2《中止1　テ1》　止4《断止2　トモ1　ベシ1》　体3《ナリ1　ハ1　ガ1》
（自動詞）
（未然形の例）　リ下接例
・住持人ヒトリ面南ニシテ法座ノ階前ニ立セリ（安居　十五16オ9・下88 15）
（他動詞）
（未然形の例）　ム下接例
・宗ノ称ヲ立セントキ潙山宗トイフヘシ大潙宗トイフヘシ（仏道九37ウ6・中224 14）

(210) **略ス**（2例・他）　用2《テ2》
・イマ略メ挙スル也　（伝衣　七17ウ3・上201 12）

(211) **令ス**（1例・他）　用1《テ1》
・僧ニ令シテ師ヲ請スルニ出山セス（行持上　三48オ5・中25 10）

(212) **量ス**（7例・他ヲ）　未2《ム1　ラル1》　止4《ベシ4》　体1《ニ接1》
（連体形の例）ニ接下接例
・無縫塔ノ高多少ヲ量スルニ高多少ノ道得アルヘシ（授記　五5ウ6・中83 5）

(213) **領ス**（2例・他ヲ）　未1《ズ1》　用1《テ1》
（連用形の例）　テ下接例
・首座スナハチ大衆ヲ領シテ庫司ニイタリテ人事ス（安居　十五16ウ6・下89 6）

(214) **列ス**（1例・他）　未1《リ1》
・白紙ニカキテ月輪ノコトク円ニシテ浄竿ニツケ列セリ（洗浄　十一23ウ1・上111 4）

(215) **弄ス**（3例・他）　未1《ム1》　用1《動詞1》　止1《ベシ1》
（連用形の例）　動詞下接例
・コレヲ業識ニ弄シキタルコト千万端ナリ（身心　一33オ3・中122 3）

(216) **録ス**（1例・他）　未1《リ1》
・宋朝ノ録者アヤマリテ録セルナリ　（坐箴　三12ウ2・上406 6）

(217) **論ズ**（22例・他ヲ）　未7《ズ4　ム2　バ1》　止3《ト1　ベシ2》　体11《連体法7　ナリ1　ノミナリ1　ニハ1　ニ

(196) **抹ス**（2例・他ヲ）　用2《テ2》

・モシ愚人ノイフカコトクナラハ五臓六腑ヲ細塵ニ抹シテ即空ナラシメテ大海水ヲツクシテアラフトモ塵中ナホアラハスハイカテカ清浄ナラン（洗面　十36オ5・中297 8）

(197) **瞞ズ**（2例・他）　未2《ラル》

・乾峯老漢ハシメヨリ拄杖ニ瞞セラレサラムヨシ（十方　十一33ウ6・中342 1）

(198) **命ズ**（1例・他）　用1《テ1》

・僧ニ命シテ師ヲ請スルニ出山セス（行持上　三48オ5令シテ・中25 10令シテ）

命シテとあるのは『道元禅師全集上』（129頁16行）であるが、この部分に異文は示されてゐない。古写本を検すると、七十五巻本系の正法寺本、竜門寺本は「令シテ」であり、梵清本系の玉雲寺本・長円寺本も同様、「令シテ」である。「命シテ」とあるのは、洞雲寺本・瑠璃光寺本と六十巻本系のものである。

(199) **銘ズ**（8例・他ヲ）　未2《リ2》　用1《動詞1》　止5《ベシ5》

（終止形の例）　ベシ下接例

・コノ道ヲ皮肉骨髄ニ銘スヘシ（山水　六23オ10・上226 14）

(200) **滅ス**（11例・自）　用2《ヌ2》　止4《断止3　トモ1》　体5《連体法1　ト1　ナリ2　ガ1》

（連体形の例）　ガ下接例

・法ノナカニ生シ法ノナカニ滅スルカユヘニ尽十方界ノナカニ法ヲ正伝シツレハ生〻ニキ、身〻ニ修スルナリ（自證　十四20ウ8・下46 12）

(201) **問ス**（4例・他）　未1《ラル1》　止1《ベシ1》　体2《ナリ1　ノミナリ1》

（連体形の例）　ノミナリ下接例

・タ、カサネサマニ三度シキリニ問スルノミナリ（他心　十五35ウ7・下111 3）

(202) **有ス**（1例・他）　未1《シム1》

・シルヘシ三界外ニ一衆生界蔵ヲ有セシムルハ外道大有経ナリ（三界　九4ウ9・中200 1）

(203) **融ズ**（1例・自）　用1《テ1》

・融〆ハ乳水ヨリモヤハラカナリ（山水　六19オ5・上221 11）

(204) **要ス**（4例・他ヲ）　未2《ム1　バ1》　体2《ナリ1　ニ接1》

（未然形の例）　バ下接例

・ツキニイハクナンチ嗣書ヲ要セハ倉卒ナルコトナカレ（自證　十四23オ5・下49 4）

(205) **礼ス**（4例・他ヲ）　未3《ズ2　シ1》　体1《中止1》

（未然形の例）　シ下接例

・鬼ノ先骨ヲウツアリキ天ノ先骨ヲ礼セシアリ（行持下　四10ウ7・中49 14）

う。

(187) **遍ズ**（2例・自）　止1（断止1）　体1（連体法1）

（終止形・連体形の例）　断止・連体法

・サラニ又身ハカナラス心ニ遍ス心ハカナラス身ニ遍スルユヘニ身心遍トイフ（授記　五8オ3・中86 1）

(188) **弁ズ**（1例・他ヲ）　体1（ニ接1）

・近来ノ長老等ワツカニ王臣ノ帖ヲタツサエテ梵刹ノ主人トイフヲモテカクノコトクノ狂言アリ是非ヲ弁スルニ人ナシ（仏経　十22ウ1・中265 11）

(189) **補ス**（5例・自2・他3ヲ）　㊀止1（断止1）　体1（連体法1）　㊁用1（中止1）　止2（断止1　ベシ1）

（自動詞）

（終止形の例）　断止

・宗鑒長老退院ノノチォ鼎和尚補ス（嗣書　八30オ2・上246 3）

もう一例自動詞の例は「…一院ヲ討得シテ住持職ニ補スルトキハ…」（嗣書　八35オ4・上242 6）とあるものである。補スは一般には官職等に任命することを意味する場合は他動詞であるが、右の例はいづれも、補セラルの意として用ゐてゐる。自動詞とせざるをえない。

（他動詞）

（連用形・終止形の例）　中止法・断止

・コレヨク天ヲ補シ地ヲ補ス（山水　六17オ9～10・上219 11）

他動詞としても官位につける意に用ゐる例が一例ある。

(190) **奉ズ**（1例・他ヲ）　止1（断止1）

・初祖索仙陀婆四子馬塩水器ヲ奉ス（王索　十五38ウ10・下114 13）

(191) **報ズ**（4例・他ヲ）　未1（ズ1）　止2（断止1　ベシ1）　体1（ニ接1）

（未然形の例）　ズ下接例

・誰ノ心アランカコノ恩ヲ報セサラン（行持下　四5オ7・中43 10）

報イルの意のもの（3例）と、告ゲル意のもの（1例）とがある。

(192) **亡ズ**（1例・自）　用1（中止1）

・ソノナカニシハラク妄法ノ空花アリトイヘトモ一念相応ノ智恵アラワレヌレハ物モ亡シ境モ滅シヌレハ霊知本性ヒトリ了了トシテ鎮常ナリ（即心　一39オ1・上101 13）

(193) **忘ズ**（1例・他）　用1（動詞1）

・但タ、マサニ心性フタツナカラナケステキタリ玄妙トモニ忘シキタリテ二相不正ノトキ證契スルナリ（説心　九8ウ5・中206 5）

(194) **謗ズ**（5例・他ヲ）　止1（断止1）　体4（連体法3　ナリ1）

（連体形の例）　ナリ下接例

・流ノミナリト認スルハ流ノコトハ水ヲ謗スルナリ（山水　六24ウ10・上228 11）

(195) **磨ス**（14例・他ヲ）　用9（テ7　動詞2）　止1（断止1）　体4（連体法2　ナリ2）

（連用形・連体形の例）　動詞下接・連体法

・又疑着スラクハ古鏡ヲ磨スルトキアヤマリテ塼ト磨シナスコトノアルヘキカ（古鏡　四61ウ5・上301 5）

14例すべて古鏡巻に用ゐられてゐる。

・カノ道教儒教ヲモテ仏教ヲ比スル愚癡ノカナシムヘキノミニアラス罪業ノ因縁ナリ（仏経　十20ウ6・中263 14）

(178) **譬ス**（4例・他ヲ）　未4《ズ4》

・如来道ハ雲ヲ什麼法ニ譬セス（都機　五18ウ1・中163 5）

(179) **白ス**（3例・自）　用2《テ2》　止1《ベシ1》

（終止形の例）　ベシ下接例

・当時スナハチ世尊ニ白スベシ（安居　十五8ウ5・下80 8）

『道元禅師全集』ではこの例「まうす」とルビがあるが、他と同様、漢語サ変とすべきでビャクスである。「白仏言」などといふ「白」である。

(180) **俵ス**（9例・他ヲ）　止6《断止6》　体3《連体法2　ガ1》

（終止形の例）　断止

・施主巡堂ノ時ハ衆僧合掌スツキニ看経銭ヲ俵ス（看経　六33ウ6・上311 9）

この語はすべて看経の巻に用ゐられてゐる。布施等を分配することをいふ。

(181) **赴ス**（1例・自）　止1《断止1》

・大衆スナハチ雲堂ノ点湯ノ座ニ赴ス（安居　十五14ウ2・下86 12）

(182) **伏ス**（1例・自）　体1《ナリ1》

・仏祖威儀現成スルトコロニ邪法オノツカラ伏スルナリ（洗浄　十一22ウ1・上110 1）

(183) **服ス**（3例・他ヲ）　未2《ズ2》　用1《テ1》

（未然形の例）　ズ下接例

・俗ナヲイハク先王ノ服ニアラサレハ服セス先王ノ法ニアラサレハオコナハス　（伝衣　七15ウ8・上199 7）

これは着用スルの意である。

(184) **覆ス**（1例・他ヲ）　止1《断止1》

・コレニヨリテ舌相アマネク三千ヲ覆ス（見仏　十二5ウ9・中347 9）

(185) **分ス**（1例・他）　用1《テ1》

・クロカラス黄色ナル土ヲトリテ一丸ノオホキサ大ナル大豆許ニ分シテイシノウヘアルイハ便宜ノトコロニ七丸ヲヒトナラヘニオキテ……（洗浄　十一22ウ5・上110 4）

(186) **変ズ**（5例・自4・他1ヲ）　自未2《ズ2》　用1《テ1》　止1《トモ1》　他未1《ム1》

（自動詞）

（連用形の例）　テ下接例

・活ハタトヒ全活ナリトモ死ノ変シテ活ト現スルニアラス（説心九14オ5・中212 3）

（他動詞）

・師イハクナンヂナンソ変セザル末山イハクコレ野狐精ニアラズナニヲカ変ゼン（礼拝　六11ウ7・上122 4）

他動詞の用例として掲げたのは、ナニヲカとあることを重視したものである。文脈からいへば、前文のナンゾ変ゼザルに対してをり、さうすれば、自動詞とも考へたくなるが、ナニヲカをナニニカとか、あるいは、ナンゾの如き副詞相当句とみることはやはり無理であら

（自動詞）

（連体形の例）　ナリ下接例

・アハレムヘシ仏祖ノ大道ノ廃スルナリ（山水　六18オ8・上220 11）

（他動詞）

（未然形の例）　シ下接例

・武帝ハ会昌ノ天子ナリ仏法ヲ廃セシ人ナリ（行持上　三58オ5・中36 10）

(171) **拝ス**（31例・他ヲ）　未1（ラル1）　用11（中止9　動詞2）　止12（断止5　ベシ7）　体7（連体法1　ナリ3　ニ接2　中止1）

（連用形の例）　中止法

・帝者オホク山ニ幸シテ賢人ヲ拝シ大聖ヲ拝問スルハ古今ノ勝躅ナリ（山水　六23ウ6・上227 5）

(172) **拍ス**（1例・他）　用1（中止1）

・サラニ僧堂イマ板ヲトリテ雲中ニ拍シ仏殿イマ笙ヲフクムテ水底ニフク（優曇　十三16オ6・中395 11）

(173) **縛ス**（1例・他）　未1（ラル1）

・イマ行仏カツテカクノコトクノ縛ニ縛セラレサルナリ（行仏　二3オ2・上346 5）

(174) **発ス**（5例・自4・他1ヲ）　㊀体2（ナリ2）　已2（バ2）　㊁用1（テ1）

（自動詞）

（連体形・已然形の例）　ナリ下接・バ下接例

・コレニヨリテ一塵タチマチニ発スレハ一心シタカヒテ発スルナリ（発菩　十三11ウ8・中403 4）

（他動詞）

・武宗ノ廃仏法ヲ発シテ宣宗スナハチ仏法ヲ中興ス（行持上　三59オ4乾「廃シ」・中37 11）

他動詞の例は、永平寺版のみ「発」である。ここは「廃」とあるべきものである。とすれば、この場合発スはすべて自動詞である。

(175) **罰ス**（1例・他ヲ）　用1（テ1）

・武宗アルトキ宣宗ヲメシテ昔日チヽノクラヰニノホリシコトヲ罰シテ一頓打殺シテ後花園ノナカニオキテ不浄ヲ灌スルニ復生ス（行持上　三58オ6・中36 11）　乾・脱

(176) **判ズ**（1例・他ヲ）　止1（断止1）

・ソノ威儀戒律トモニモチヰルヘシトイヒテ小乗声聞ノ法ヲモテ大乗菩薩法ノ威儀進止ヲ判ス（分法　十二42ウ5・下363）

(177) **比ス**（8例・自1・他7ヲ）　㊀止1（ベシ1）　㊁未2（ズ1　ム1）　止1（ベシ1）　体4（連体法1　ハ1　ニハ1　中止1）

（自動詞）

・山河大地コレ眼睛露ノ朕兆不打ナリ穐風清ナリ一老ナリ秋月明ナリ一不老ナリ秋風清ナリ四大海モ比スヘキニアラス（眼睛　十二17オ9・中365 9）

（他動詞）

（連体形の例）　中止形

2（ナリ1　ハ1）

（未然形の例）　シム下接例

・アルイハ皮肉骨髄ヲ得セシメテ嗣法ス（嗣書　八32オ10・上229 10）

この例、エセシメテと読まれることがあるが、トクセシメテである。得スと漢語サ変動詞であり、ウではない。

(165) 嬈ス（1例・他）　未1（ラル1）

・他ノスヽメニヨリテ片善ヲ修シ魔ニ嬈セラレテ礼仏スルマタ発菩提心ナリ（発菩　十三7ウ10・中398 8）

(166) 認ズ（34例・他ヲ・ト）　未3（ズ1　リ1　ラル1）　用13（中止3　テ8　動詞2）　止1（トモ1）　体17（連体法8　ナリ3　ノミナリ1　ハ5）

（連用形の例）　テ下接例

・無情ヲ認シテ草木瓦礫トスルハ不参飽ナリ（無情　十4オ10・中271 7）

（連体形の例）　連体法

・イツレノタクヒモ山ニモチキルラント認スルコトナカレ（山水　六22ウ4・上225 14）

(167) 拈ズ（45例・他ヲ）　未1（リ1）　用40（中止2　テ38）　止3（断止3）　体1（ナリ1）

（連用形の例）　テ下接例

・仏祖カナラス水ヲ拈メ身心トシ思量トセリ（山水　六21ウ4・上224 12）

連用形の例が大半で、しかも、それは拈ジテと使はれるものが大部分である。

(168) 破ス（6例・自1・他5ヲ）　㊀止1（断止1）　㊁用4（中止1　テ3）　止1（断止1）

（自動詞）

・竹節ナヲ破スオソレツヘキ時候ナリ（行持下　四11ウ9・中513）

（他動詞）

（連用形の例）　テ下接例

・カクノコトクノ経ハ微塵ヲ破シテ出現セシム法界ヲ破シテイタサシムルナリ（仏経　十15オ10・中583）

(169) 背ス（12例・他ヲ）　未3（リ3）　止5（断止2　ト2　ベシ1）　体4（ナリ1　ニ接1　カ1　中止1）

（未然形の例）　リ下接例

・オノ〳〵一面ノ古鏡ヲ背セリトハ古鏡タトヒ諸仏祖面ナリトモ古鏡ハ向上ニモ古鏡ナリ（古鏡　四55オ2・上293 14）

（連体形の例）　中止形

・真如ヲ背スルコレ邪ナリ真如ニ向スルコレ邪ナリ（空花　三30オ5・中171 14）

背スの意味は、第一の例のごとく背ニ負フの意のものと、第二例のごとく、違背スルの意のものとがある。後者は一例のみである。なほ、背ニ負フの意は、同時に背ニ裏打ヲスルやうなことだと眼蔵本文中にみえる。

(170) 廃ス（12例・自6・他6ヲ）　㊀未4（リ4）　体2（ナリ2）　㊁未3（ズ1リ1　シ1）　用2（テ2）　体1（連体法1）

（未然形の例）　ム下接例

・カノ会ニ投セントオモムク（心不　二21ウ7・上263 14）

（他動詞）

・一向ニ仏法ニ身心ヲ投センコトヲフカクタクハフルコヽロトセルハ仏法カナラス人ヲアハレムコトアルナリ（礼拝　六13ウ2・上124 3）

自他ともに意味に差はない。目的語が文にあらはれたものが他動詞であり、投ズの中に身ヲが含意されてゐるのが自動詞である。

(160) 答ス（2例・自ト）　止1（ベシ1）　体1（ニ接1）

（終止形の例）　ベシ下接例

・出家受戒シ大僧トナリテキタルヘシト答スヘシ（大修　十四14ウ5・下624）

(161) 同ズ（10例・自7・他3ヲ・ト）　㊀未3（ズ2　ム1）　止3（トモ1　ベシ2）　体1（連体法1）　㊁止2（ベシ2）　体1（ヲ1）

（自動詞）

（未然形の用法）　ズ下接例

・イマ圜悟サラニ玄沙ニ同セス雪峯ニ同セサル道アリ（行仏　二15ウ3・上360 11）

（他動詞）

（終止形の例）　ベシ下接例

・殺ノ言タトヒ凡夫ノコトハニヒトシクトモヒトヘニ凡夫ト同スヘカラス（坐箴　三10オ4・上403 10）

同ズは国語辞典では自動詞としてしか登載されてゐないが、眼蔵には右のごとく、他動詞としての用法もある。ヒトシメル・同ジトスル意である。

(162) 道ス（4例・自3・他1）　㊀ク語法1　用1（動詞1）　止1（断止1）　㊁止1（断止1）

（自動詞）

（ク語法の例）

・曹山ノ道スラク万有非其功絶気（海印　三23オ6・中78 1）

連用形に下接する動詞はヲハルである。

（他動詞）

・コレヲ全収ト道ス（見仏　十二5オ1・中346 9）

自動詞・他動詞ともにイフの意である。道スの例は少ないが、道取・道著などと接尾辞を伴なつたものの用例は多い。

(163) 動ズ（8例・自7・他1ヲ）　㊀未1（ズ1）　止1（ト1）　体3（ナリ2　ハ1）　已2（バ2）　㊁体1（ナリ1）

（自動詞）

（連体形・已然形の例）　ハ下接・バ下接例

・動スルハイカヽセントイフハ動スレハサラニ仏性一枚ヲカサヌヘシト道取スルカ（仏性　一31オ4・上342 7～8）

（他動詞）

・イハユル因果ヲ動スルニアラス造作スルニアラス（諸悪　七4ウ2・上149 12）

(164) 得ス（8例・他ヲ）　未4（リ3　シム1）　用2（キ2）　体

る。このあたりでは、自他の区別は微妙で、一面形式的である。

(153)**呈ス**（10例・他ヲ）　用1（テ1）　止3（断止3）　体6（連体法1　ニ接5）

（連体形の例）　ニ接下接例

・アルトキ廬山ニイタレリシチナミニ渓水ノ夜流スル声ヲキクニ悟道ス偈ヲツクリテ常総禅師ニ呈スルニイハク渓声便是広長舌山色豈無非清浄身夜来八万四千偈佗日如何挙似人（谿声　五25ウ1・上135 9）

接続助詞ニの下接する例いづれも右例と同様である。このニは、格助詞とされる事もあるが、やはり、この文形式では接続助詞とするのがよからう。

(154)**提ス**（3例・他ヲ）　未1（リ1）　用2（テ2）

（未然形の例）　リ下接例

・一手ニモノヲ提セラントキハ一手ニテ揖スヘシ（洗浄　十一23ウ8・上111 11）

(155)**展ズ**（1例・他）　体1（ナリ1）

・住持人ノ坐具ハ拝席ノウヘニ展スルナリ（安居　十五16オ10・下89 1）

(156)**転ズ**（27例・自2・他25ヲ）　㊀体2（連体法1　ノミナリ1）　㊁未8（ラル8）　用4（中止1　テ3）　止5（断止5）　体8（連体法3　ナリ2　ニ格1　ガ1　中止1）

（自動詞）

・コノ法輪コノトキ総不要輪ノ転スルノミナリ（仏教　七40ウ7・上367 15）

（他動詞）

（未然形の例）　ラル下接例

・浄信一現スルトキ自他オナシク転セラルヽナリ（谿声　五33ウ5・上145 3）

（連体形の例）　中止形

・イマコノ古仏ノ法輪ヲ尽界ノ最極ニ転スル一切人天ノ得道ノ時節ナリ（梅花　十一13ウ1・中328 6）

連体形の例はいろいろの文形があるが、未然形の例はいづれも転ゼラル、連用形は転ジ、転ジテ、終止形は断止の例ときまつた形で用ゐられてゐる。自他の区別があるが、「法輪ヲ転ズ」と「法輪ガ転ズ」の違ひである。

(157)**点ズ**（10例・他ヲ）　未2（ム2）　用2（テ2）　止4（断止2　ベシ2）　体2（連体法2）

（未然形の例）　ム下接例

・イマイツレノ心ヲカモチキヲシテイカニ点心セントカスル（心不二22オ8・上264 9）

(158)**逗ズ**（1例・自）　体1（連体法1）

・諸仏ハ機縁ニ逗スル説法アリトノミシリテ諸仏聴法ストイハス（行仏　二14オ8・上359 6）

(159)**投ズ**（6例・自5・他1ヲ）　㊀未2（ム1　リ1）　用3（テ3）　㊁未1（ム1）

（自動詞）

千万法ナリ（身心　一33オ3・中122 2）

(144) **断ズ**（1例・自）　用1（テ1）

・如一面古鏡ノ道ハ一面トハ辺際ナガク断シテ内外サラニアラサルナリ（古鏡　四49ウ8・上288 7）

(145) **知ス**（2例・他）　体2（連体法1　ナリ1）

。ナリ下接例

・イマノ一知ワツカニ使用スルト尽海山河ヲ拈来シ尽力シテ知スルナリ（坐箴　三14オ2・上407 15）

(146) **治ス**（4例・他ヲ）　未1（ム1）　用1（中止1）　止1（断止1）　体1（ガ1）

（未然形の例）　ム下接例

・其師洛陽龍門香山宝静禅師コレヲ治セントスルトキニ空中有声曰……（行持下　四11ウ2・中50 12）

(147) **朝ス**（1例・自）　未1（ズ1）

・風情ノキコエサルナシ筆海ノ朝セサルナカルヘシ（諸悪　七8ウ1・上154 1）

(148) **貼ス**（7例・他ヲ）　未4（リ3　シム1）　止1（断止1）　体2（連体法1　ナリ1）

（未然形の例）　リ下接例

・牓ヲ方丈門ノ東頰ニ貼セリ（安居　十五15ウ9・下88 8）

(149) **長ズ**（6例・自）　未4（リ3　シム1）　用1（テ1）　止1（ベシ1）

（連用形の例）　テ下接例

・イトケナクシテ父ヲ喪シ長メハ母ヲウシナイウ（恁麼　四34オ7・上428 15）

成長するの意と、何かにすぐれるの意とで用ゐられてゐる。

(150) **徴ス**（1例・他）　用1（テ1）

・玄沙ノ徴シテイハク前両度還見麼（他心　十五33オ9乾本「徴ニ」・下108 14）

(151) **敕ス**（1例・自）　用1（テ1）

・アルイハ諸比丘に敕シテ剃頭鬚髪出家受戒セシメマシマス（出家十五44オ10・下125 11）

(152) **通ズ**（20例・自5・他15ヲ）　㊀未1（ズ1）　体4（連体法4）　㊁未8ズ（6ム1　リ1　止1）　止3（断止1　ベシ2）　体4（連体法3　ハ1）

（自動詞）

（連体形の例）　連体法

・一花ノ道理ノ通スルトコロ吾本来此土伝法救迷情ナリ（空花　三24オ5・中165 5）

（他動詞）

（未然形の例）　ス下接例

・カナシムヘシ大宋一国ノ在家出家イツレノ一箇モ龍樹ノコトハヲキカスシラス提婆ノ道ヲ通セスミサルコト（仏性　一22オ7・上330 13）

他動詞の用法「…ヲ通ズ」と自動詞の「…ニ通ズ」（「一法ニ通セス」諸悪　七9ウ8・上155 6）とは、その意味上はほとんど同じであ

一22ウ6・上331 7）

この体スは、引用漢文「身現円月相以表諸仏体説法無其形用弁非声色」によるものである。一般にも体スなる動詞はあるが、この眼蔵の用例は、それとは全く別である。右の例はふつうには動詞化しにくいものである。体スに限らず、眼蔵においては、引用漢文中の語句を縦横に駆使拈提することが多い。右の例文についていえば、「以表」も一語としては一般にはありえぬ措辞であろう。ともかく、体スは普通には動詞にならぬ語の眼蔵における特殊用法の一例である。

(136) 対ス（5例・自）用4（中止2　テ2）止1（ベシ1）

（連用形・終止形の例）　中止法・ベシ下接例

・カナラス耳ト肩ト対シ鼻ト臍ト対スヘシ（坐儀　三3オ7～8・中324 7）

(137) 題ス（1例・他ヲ）用1（テ1）

・志閑ミツカラ瀑布ヲ題メイハク……（行持上三58オ10・中36 15）

(138) 卓ス（1例・他ヲ）止1（断止1）

・雪峯ノ真覚大師ノ会ニ一僧アリテ山ノホトリニユキヲ草ヲムスヒテ庵ヲ卓ス（道得　七33ウ3・中142 6）

国語においては、卓を動詞として用ゐる例をあまりみないが、卓には立テル意がある。

(139) 搭ス（5例・他ヲ）未1（ズ1）用3（中止2　テ1）体1（連体法1）

（連用形の例）　テ下接例

・居士ツネニ法衣ヲ搭シテ修道シキ（谿声　五25ウ7・上135 14）

(140) 達ス（11例・自9・他2ヲ）㊀未7（ズ4　リ3）体2（ナリ1　中止1）㊁用1（テ1）止1（ベシ1）

（自動詞）

（連体形の例）　ナリ下接例

・仏道ハカナラス神通ヨリ達スルナリ（神通　八12オ10・上386 10）

（他動詞）

（連用形の例）　テ下接例

・タヽ多ヲ会シテ一ヲワスレ一ヲ達シテ多ニワツラフカコトシ（仏経　十19オ1・中262 1）

(141) 脱ス（5例・他ヲ）用4（テ2　動詞2）体1（ナリ1）

（連用形の例）　動詞下接例

・イマタ仏法ヲ見聞セサルトモカライハク野狐ヲ脱シオハリヌレハ本覚ノ性海ニ帰スルナリ（大修　十四11オ1・下58 4）

動詞下接例・右のほかの一例は脱シトリテとある。むしろ複合語とすべきものである。動詞が下接する場合、この場合に限らず、複合語的なものか、あるいは、助動詞的なものである。

(142) 談ズ（4例・他ヲ）止3（断2　ト1）体1（連体法1）

（連体形の例）　連体法

・大宋国ノ諸僧ノサカリニ談スルムネナリ（仏経　十19ウ7・中262 14）

(143) 団ス（1例・他ヲ）用1（動詞1）

・コレヲ眼睛ニ団シキタルコト二三斛コレヲ業識ニ弄シキタルコト

・イハユル執坐相トハ坐相ヲ捨シ坐相ヲ触スルナリ（坐箴　三10オ7・上403 13）

(127) **続ス**（2例・他ヲ）　用2（テ2）

・タトヘハ水ヲ朝宗セシメテ宗派ヲ長セシメ灯ヲ続シテ光明ツネナラシムルニ億千万法スルニ本枝一如ナルナリ（面授　十一3ウ2・中312 13）

(128) **属ス**（7例・自）　未5（ズ2　リ3）　体2（ガ1　ナリ1）

（未然形・連体形の例）　リ下接・ナリ下接例

・オホヨソ山ハ国界ニ属セリトイヘトモ山ヲ愛スル人ニ属スルナリ（山水　六23ウ2・上227 1）

(129) **卒ス**（1例・他）　用1（動詞1）

・侍者ニ剃刀ヲモタセヲ卒シユク（道得　七34オ4・中142 15）

率スと同様のものとして用ゐられてゐる。

(130) **存ス**（4例・自1・他3ヲ）　㊀止1（断止1）　㊁未2（ム1　リ1）　体1（ナリ1）

（自動詞）

・人ニシタカヒテ今案ノコトハモ存ス（安居　十五18ウ9・下91 9）

（他動詞）

（未然形の例）　リ下接例

・マタ性ヲ体トシテ性ヲ存セルカコトシ（諸法　九17ウ1・中235 10）

(131) **損ス**（1例・他ヲ）　体1（ナリ1）

・仏祖イマタ聴許セサルヲ晩学ミタリニ称スルハ仏祖ノ家門ヲ損スルナラン（仏道　九31オ8・中218 6）

(132) **堕ス**（3例・自）　用1（テ1）　止1（ベシ1）　体1（連体法1）

（連用形の例）　テ下接例

・ウラムヘシ数百軸ノ釈主数十年ノ講者ワツカニ婆弊ノ一問ヲウルニタチマチニ負処ニ堕シテ祇対ニオヨハサルコト（心不　二22ウ3・上264 13）

右掲の文は、「ウラムヘシ……コト」といふ例置の文である。

(133) **退ス**（4例・自3・他1ヲ）　㊀未1（ズ1）　止2（断止2）　㊁体1（連体法1）

（自動詞）

（未然形の例）　ズ下接例

・仏果ニイタリテナホ退セス（洗浄　十一20ウ3・上107 10）

（他動詞）

・如来ノ正法眼蔵ヲ正伝ストイエトモコノ頭陀ヲ退スルコトナシ（行持上　三41ウ9・中18 4）

『日本国語大辞典』で、この語は他動詞として登載されてゐるが、眼蔵には、シリゾク意の自動詞としても用ゐられてゐる。

(134) **帯ス**（8例・他ヲ）　未6（リ5　ラル1）　用2（テ2）

（未然形の例）　リ下接例

・カノ師伝蔵主マタ嗣書を帯セリ（嗣書　八36オ3・上243 5）

(135) **体ス**（1例・他ヲ）　未1（ズ1）

・シカアルヲ身現ヲ画セス円月ヲ画セス満月相ヲ画セス諸仏体を図セス以表ヲ体セス説法ヲ図セスイタツラニ画餅一枚ヲ図ス（仏性

・坐禅儀ヲ撰セル老宿一両位アリ（坐箴　三12オ1・上405 12）

(117) **賤ス**（2例・他ヲ）　体2（連体法2）

・遠ヲ貴スルコトナカレ遠ヲ賤スルコトナカレ（坐箴　三6オ7・上309 7）

さきに貴スの項にこれについて述べた。賤スとこの語を動詞に用ゐる例は他に管見しない。賤トスの意である。

(118) **選ス**（3例・他ヲ）　体3（ニハ1　ニ接1　中止1）。終止形

・仏祖ノ仏祖ヲ選スル凡聖路ヲ超越スルカユエニ六祖ステニ六祖トナレルナリ（伝衣　七25オ10・上210 1選スルニ）

(119) **宗ス**（1例・他ヲ）　止1（ベシ1）

・ソノ教伊瞬ハ海ヲ宗スヘシ是ハ伊ニ慣習セリ（有時　四67ウ6・上164 3）

この宗スは朝宗スの宗と同意であらう。意味は自動詞的であるが、右の用法においては他動詞とせざるをえない。

(120) **奏ス**（1例・他）　止1（断止1）

・穆宗ニ奏ス（行持上　三57ウ8・中36 4）

(121) **喪ス**（2例・他ヲ）　用1（中止1）　止1（断止1）

（連用形の例）　中止法

・イトケナクシテ父ヲ喪シ長〆ハ母ヲヤシナイウ（恁麼　四34オ7・上428 15）

(122) **装ス**（1例・他ヲ）　用1（中止1）

・侍僧チナミニ香爐ヲ装シ燭ヲタテ師モシサキヨリ椅子ニ坐セハスナハチ焼香スヘシ（陀羅　十29オ9・中288 8）

(123) **澡ス**（2例・他ヲ）　用1（中止1）　止1（断止1）

（連用形・終止形の例）　中止法・断止

・払子経アリ雪ヲ澡シ霜ヲ澡ス（自證　十四19オ8・下45 3）

(124) **捻ズ**（1例・自）　用1（テ1）

・三蔵タトヒ第三度ワツカニイフトコロアリトモ前両度ノコトクアラハ道処アルニアラス捻シテ叱スヘキナリ（他心　十五29ウ4・下104 3）

これは、捻ジテを一語の副詞とみることもできる。自他を区別すればここでは自動詞である。

(125) **増ス**（2例・自）　未1（ズ1）　体1（カ1）

（未然形・連体形の例）　ズ下接・カ下接例

・生死ハ一点ヲ増スルカ増セサルカ（身心　一33ウ6・中123 1）

この語も、もし、増セリ・増スなどとあれば、マセリ・マスと、区別がつかないものであるが、今の場合、疑問はおこらない。

(126) **触ス**（6例・自5・他1ヲ）　㊀未4（ズ1　リ2　シム1）止1（断止1）　㊁体1（ナリ1）

（自動詞）

（未然形の例）　シム下接例

・モシステニ一手ヲ触セシメ一手ニモノヲ提セラントキハ一手ニテ揖スヘシ（洗浄　十一23ウ8・上111 11）

よごれる、けがれるの意である。

（他動詞）

・釈迦仏モシ迦葉仏ニ嗣法セサランハ天然外道トヲナシカルヘシタレカ釈迦仏を信スルアラン（嗣書　八42オ2・上248 14）

(108) **箴ス**（1例・他）　未1（ラル1）

・前仏後仏コノ箴ニ箴（↑咸）セラレモテユキ今祖古祖コノ箴ヨリ現成スルナリ（坐箴　三12ウ6・上406 9）

この語も一般的な用語法とは逕庭がある。箴スとは、右においては、箴が箴として機能することを意味してゐる。

(109) **図ス**（15例・他ヲ）　未4（ズ2　ム1　バ1）　用2（テ1　動詞1）　止7（断止2　ベシ5）　体2（連体法1　結1）

（未然形・終止形の例）バ下接・ベシ下接例

・円月相ヲ図セハ円月相ヲ図スヘシ（仏性　一22ウ4・上331 5）

（連体形の例）　結

・坐禅ナニコトヲカ図スル（古鏡　四60ウ4・上300 2）

図スには、描くの意と、はかる（計画する）の意に用ゐられるものとがある。

(110) **塗ス**（1例・他ヲ）　体1（ニ接1）

・塵穢ヲ澡浴シ香油ヲ身ニ塗スルニ内外俱浄ナルヘシ（洗面　十34オ8・中295 7）

(111) **推ス**（1例・他）　体1（ニ接1）

・コレヲモテ推スルニ仏祖ノ大道イマ陵夷モミルランコトイクソハクトイフコトシラス（洗面　十44オ4・中306 6）

(112) **是ス**（1例・他ヲ）　体1（ノミナリ1）

・如是ヲ是スルノミニアラスタ、威儀行仏ナルノミナリ（行仏　二10ウ1・上354 14）

これは是トスルの意である。

(113) **制ス**（1例・他）　止1（断止1）

・手巾ハ一幅ノ布ナカサ一丈二尺ナリソノイロシロカルヘカラスシロキハ制ス（洗面　十38ウ1・中300 4）

(114) **製ス**（1例・他）　体1（連体法1）

・アルイハ五十餘代アルイハ四十餘代ヲノ々師資ミタルコトナク先仏ノ法ニヨリテ搭シ先仏ノ法ニヨリテ製スルコトモ唯仏与仏ノ相伝シ證契〆代〻ヲフルニヲナシクアラタナリ（伝衣　七17オ4・上200 13）

(115) **接ス**（13例・他ヲ）　未1（ラル1）　用1（テ1）　止5（断止1　ト1　ヤ1　ベシ2）　体6（連体法2　ナリ1　ノミナリ1　ハ1　中止1）

（未然形・終止形の例）　ラル下接・ヤ下接例

・仏道ニ動静アリヤ動静ナシヤ動静ヲ接スヤ動静ニ接セラルヤト審細ニ参学スヘシ（分法　十二41ウ3・下34 14）

（連体形の例）　中止形

・法力ノ身心ヲ接スル凡慮イカニシテカ覚知シツクサン（無情　十8ウ1・中275 6）

(116) **撰ス**（4例・他ヲ）　未2（リ2）　止1（断止1）　体1（連体法1）

（未然形の例）　リ下接例

・去来辺際スヘテ学セサレハ仏弟子ト称スルニタラス（仏教　七37ウ3・上364 11）
　。結
・イツレノ仏語ニカ仏心宗ト称スル（仏道　九41ウ8・中229 3）
　。中止形
・一枝ノ到処ヲ而今ト称スル瞿曇老漢ナリ（梅花　十一16オ6・中331 11）

称スは漢字一字のサ変動詞中、二番目に使用数が多い語であるが、仏道巻に、約半数（56例）が集中してゐる。右には、愛ス・学スの用例中になかつた用法のものを主として掲げた。連用形の用例中、動詞下接例は、右掲のほか、キタルが六例ある。右掲のキコユの下接した例は、眼蔵中に他に類例ないが、謙譲を表はす補助動詞と考へられる。

(103) 掌ス（2例・他ヲ）　体2《連体法2》
・カクノコトク道シオハリテ又掌スルコト一掌ス（行持上　三59オ1・中379）

掌スはピシャリと平手うちをくはすことである。

(104) 生ズ（19例・自13・他6ヲ）　㊀未6《ズ1　リ3　シム2》用6《中止4　テ2》　止1《ベシ1》　㊁未1《リ1》　止2《断止1　ベシ1》　体3《連体法1　ニ接2》
（自動詞）
（未然形の例）　リ下接例
・師ハシメテ生セルニ肌体ミカケル琉璃ノコトシ（古鏡　四45オ10・上283 8）
　。シム下接例
・日々三時ニ礼拝シ恭敬シテサラニ患悩ノ心ヲ生セシムルコトナカレ（礼拝　六4オ7・上120 9）

シム下接例は実は、生ゼシムで一他動詞と考ふべきもので、ここで、生ズを自動詞として扱ふのはやむをえないことであるが、ある違和感を抱かしめるのである。

（他動詞）
（終止形の例）　断止
・種子ミエサレトモ根茎等ヲ生ス（仏性　一11ウ4・上317 14）

(105) 成ズ（7例・他ヲ）　未3《リ3》　用1《中止1》　体3《ニ格1　ナリ2》
（未然形の例）　リ下接例
・トモニ法位に住シテ究尽ノ功徳ヲ成セリ（山水　六15オ4・上217 3）

他との関係を考へなければ、成セリはナセリとよみうるものであるが、眼蔵の用例としては「成ゼリ」とすべきである。ちなみに、ナスは59例ある。

(106) 乗ズ（2例・自）　止2《ベシ2》
・僧密師伯サキニモコノ道取ニ乗スヘシ（説心　九13オ5・中211 2）

(107) 信ズ（11例・他ヲ）　未6《ズ4　ム2》　用1《テ1》　止3《ト1　ベシ2》　体1《準体的用法単独1》
（連体形の例）　準体的用法

召シテはメシテとよまれさうであるが、メスは、すぐ下にあるやうに「メス」と仮名書きである。

(100) **請ス**（25例・他ヲ・ト）ク語法1　未2《ム1　シ1》用5《中止1　テ4》止5《断止3　ベシ2》体12《連体法3　ナリ1　ハ1　モ1　ニ格1　ニモ1　ニ接3　中止1》

（ク語法の例）

・玄沙イハク請スラクハ和尚トフヘシ（古鏡　四53ウ8・上292 11）

（連体形の例）　ニ接下接例

・ツヰニ僧ニ令シテ師ヲ請スルニ出山セス（行持上　三48オ5・中25 10）

。中止形

・ミタリニ嗣書ヲ請スル参学ノ倉卒ナリ（自證　十四24ウ3・下50 10）

(101) **證ス**（32例・他ヲ・ト）未7《ム2　リ2　ラル2　シム1》用7《中止4　テ2　動詞1》止4《断止2　トモ1　ベシ1》体14《連体法5　準体的用法単独2　ナリ5　ハ1　中止1》

（未然形の例）　ラル下接例

・自己ヲワスルヽトイフハ万法ニ證セラルヽナリ万法ニ證セラルトイフハ自己ノ身心オヨヒ佗己ノ身心ヲヨヒ他己ノ身心ヲシテ脱落（乾・8字衍・乾脱）セシムルナリ（現成　一2ウ9・上84 1）

（連用形の例）　動詞下接例

・コレハ高祖タチマチ證上ニナホ證契ヲ證シモテユク現成ヲ曩祖チナミニ開襟シテ父祖ノ骨髄ヲ印證スルナリ（無情　十9ウ3・中276 10）

（終止形の例）　断止

・イハユル阿耨多羅三藐三菩提ヲ能信スルヲ阿羅漢ト證ス（阿羅漢八15オ8・中101 8）

（連体形の例）　準体的用法

・一身一心アリテ證スルアリ（自證　十四20オ6・下46 13）

(102) **称ス**（128例・他ヲ・ト）未12《ズ9　ム3》用25《中止11　テ3　ツ1　マシマス2　動詞8》止46《断止24　ト2　トモ1　ベシ19》体45《連体法24　準体的用法単独2　ヲバ1　ナリ8　ハ6　ニ格1　結2　中止1》

（連用形の例）　マシマス下接例

・オヨソ世尊現在カツテ仏宗ト称シマシマサス（仏道　九41ウ6・中229 1）

。動詞下接例

・曹洞宗ノ称ハ曹山ヲ称シクワフルナラン（仏道　九41オ5・中228 7）

・ナンタチカ仏祖ノ骨髄ヲ称シキコユルモ正眼ヲモテコレヲミレハ依文ノ晩進ナリ（仏経　十16ウ3・中259 8）

（連体形の例）　ヲバ下接例

・小院ノ小職ヲツトメタルヲ称スルヲハ叢林ワラフナリ（安居　十五11オ6・下82 15）

。ニ格下接例

(91)**充ス**（11例・他ヲ・ニ）　未3（シ1　バ2）　用3（中止3）　止3（断止3）　体2（連体法1　ニ接1）

（未然形の例）　シ下接例

・雲門下ノ嗣書トテ宗月（↑用）長老ノ天童ノ首座職ニ充セシトキ道元ニミセシハイマ嗣書ヲウル人ノツキカミノ師オヨヒ…（嗣書　八34オ3・241 6）

(92)**住ス**（20例・自ニ）　未5（リ2　シ3）　用8（中止1　テ7）　止4（断止2　ベシ2）　体3（連体法3）

（未然形の例）　リ下接例

・コノ因縁先師天童古仏天童山ニ住セリシトキ高麗国ノ施主入山施財大衆看経請先師陞座ノ時挙スルトコロナリ（看経　六30オ9・上307 12）

(93)**宿ス**（4例・自ニ）　止1（断止1）　体3（連体法1　ニ接2）

（連体形の例）　ニ接下接例

・道元台山ヨリ天童ニカヨル路程ニ大梅山護聖寺ノ旦過ニ宿スルニ大梅祖師キタリ開花セル一枝ノ梅花ヲサツクル霊夢ヲ感ス（嗣書　八40オ8・上247 7）

(94)**準ズ**（6例・自ニ）　用1（テ1）　止4（ベシ4）　体1（連体法1）

（連体形の例）　連体法

・コノトキ師礼ヲモテウヤマウ民間ノ法ニ準スルコトナシ（山水　六23ウ8・上227 6）

(95)**順ズ**（1例・自ニ）　止1（ベシ1）

・倉卒ニ学スヘカラス凡情ニ順スヘカラス（都機　五17ウ2・中162 3）

(96)**書ス**（1例・他ヲ）　未1（リ1）

・古教ト云ハ白紙ノ上ニ墨字ヲ書セルタレカコレヲ古教トシラン（看経　六31ウ1・上309 1）

書セルは連体中止形である。

(97)**署ス**（5例・他ニ）　未1（リ1）　用2（中止1　テ1）　体2（連体法1　ヲ1）

（連体形の例）　ヲ下接例

・近来ヲホク祖道ニ名ヲカレルヤカラミタリニ法衣ヲ搭シ長髪ヲコノミ師号（乾脱）ニ署スルヲ出世ノ舟航トセリ（嗣書　八37オ4・上244 6）

五例とも「師号ニ署ス」といふ文脈に用ゐられてゐる。

(98)**処ス**（4例・自ニ）　未3（リ3）　已1（ドモ1）

（已然形の例）　ドモ下接例

・後五百歳ニムマレテ辺地遠嶋ニ処スレトモ宿善クチスシテ古仏ノ威儀ヲ正伝シ染汚セス修證スル随喜懽喜スヘシ（洗面　十46オ10・中308 14）

(99)**召ス**（2例・他ヲ）　用2（テ2）

・仰山スナハチイツル大潙召シテ寂子トメス（神通　八3ウ7・上377 14）

～14）

この語の用例はすべて他心通巻にあり、大證国師と大耳三蔵の間に用ゐられてゐる。

(82)失ス（4例・他ヲ）　未2（リ1　シム1）　止1（断止1）　体1（ナリ1）

（未然形の例）　シム下接例

・アキラメントキコノ思量ヲシテ失セシムルニアラス（法性　十27オ1・中284 4）

(83)叉ス（1例・他ヲ）　用1（テ1）

・両手ヲ叉シテ揖スヘシ（洗浄　十一23ウ7・上111 10）

両掌を胸の前で合はせる作法を叉手といひ、叉スとは、両手を叉手にすることをいふ。この語も他の用例、管見に入らない。

(84)捨ス（1例・他ヲ）　用1（中止1）

・イハユル執坐相トハ坐相ヲ捨シ坐相ヲ触スルナリ（坐箴　三10オ7・上403 12）

(85)瀉ス（1例・他ヲ）　止1（断止1）

・浄桶ノ水ヲスコシハカリ槽裏ニ瀉ス（洗浄　十一24ウ8・上113 1）

(86)謝ス（3例・他ヲ）　未1（ム1）　用1（テ1）　止1（断止1）

（未然形の例）　ム下接例

・隆禅ヨク伝蔵ヲ看病シケルニ勤労（↑学）シキリナルニヨリテ看病ノ労ヲ謝センカタメニ嗣書ヲトリイタシテ礼拝セシメケリ（嗣書　八36オ6・上243 7）

(87)着ス（18例・他ヲ）　未6（ズ5　リ1）　用6（中止3　テ3）　止3（断止1　ベシ2）　体3（連体法2　ナリ1）

（未然形の例）　リ下接例

・イカテカマサシク仏衣ヲ着セル僧宝ト隣肩ナルコトヲエン（伝衣七27オ8・上214 2）

すべて、衣・袈裟等を身につける意である。ジャクスと読んでここに位置せしめた。

(88)修ス（10例・他ヲ）　未1（ズ1）　用4（中止2　テ1　動詞1）　体5（準体的用法単独1　ナリ2　ハ1　ヲ1）

（連体形の例）　準体的用法

・サラニ一身一心アリテ證スルアリ修スルアリ（自證　十四20オ6・下403）

(89)誦ス（3例・他ヲ）　用2（動詞2）　止1（ベシ1）

（連用形の例）　動詞下接例

・コノ文ヲ誦シオハリテマサニ嚼楊枝スヘシ（洗面　十40オ2・中301 15）

下接動詞はともにヲハルである。

(90)執ス（2例・他ヲ）　用1（テ1）　体1（ニ1）

（連体形の例）　ニ格下接例

・コノ理致ヲ執スルニヨリテ三界六道有仏無仏ミナアラサルヲアリト妄見スルトオモヘリ（空花　三26オ1・中167 6）

ナリ（発菩　十三12ウ10・中404 9）

(75)嗣ス（9例・他ニ・ヲ）　未2《ズ1　リ1》　用1《中止1》　止4《断止3　ト1》　体2《連体法2》

（未然形の例）　リ下接例

・嗣セルモノ得セルモノトモニコレ仏嗣ナリ（嗣書　八32ウ6・239 15）

嗣スと漢字一字でサ変動詞として用ゐることは一般には少ないやうである。

(76)資ス（1例・他ヲ）　未1《ム1》

・コノ恩力ヲウケテアヤマリテ外道ヲ資セン仏祖ヲ報恩スルニアラス（仏道　九31ウ4・中218 10）

右の文で「…資セン」全体では、いままで何例かあつた連体形中止の形で、下文の主語となつてゐる。これを、「資セン仏祖」と「仏祖」の連体修飾語とみるとわけがわからなくなつてしまふ。

(77)辞ス（6例・自1ヲ・他5ヲ）　㊀用1《テ1》　㊁未5《ズ5》

（自動詞）

・ナカク父王ノ国土ヲ辞シテ大舟ヲヨソフテ南海ヲヘテ広州ニトツク（行持下　四2ウ4・中40 11）

この動詞はヲをとつてゐるが、自動詞とされる。

（他動詞）

・ワレナンチカタメニイハンコトヲ辞セス（谿声　五27オ8・上137 10）

他動詞の例はいづれも「…ヲ辞セズ」である。

(78)侍ス（1例・自ニ）　未1《シ1》

・洞山悟本大師ソノカミ雲岩ニ侍セシトキ雲岩トフ（神通　八7ウ1・上381 12）

(79)持ス（6例・他ヲ）　未1《ム1》　用4《中止2　テ2》　体1《連体法1》

（連用形の例）　テ下接例

・母氏カツテ夢ミルニイハクヒトリノ大神オホキナルカヽミヲ持シテムカヘリト（古鏡四45オ9・上283 7）

(80)食ス（6例・他ヲ）　未2《リ1　シム1》　用2《中止2》　止2《ベシ2》

（未然形の例）　リ下接例

・油アルモノ食セランコトチカヽランニハ皂莢ヲモチヰルヘシ（洗面　十45オ9・中307 11）

(81)叱ス（18例・他ヲ）　未5《ム2　シ1　ラル2》　用2《テ1　ツ1》　止3《トモ1　ベシ2》　体8《連体法3　ナリ5》

（未然形・連用形・連体形の例）　ム・シ下接・ツ下接・ナリ下接例

・ワツカニ第三度ヲシラストテ叱センニハタレカ国師ヲ信セン三蔵ノ前両度ヲシリタルチカラヲモテ国師ヲモ叱シツヘシ国師ノ三蔵ヲ叱セシ宗旨ハ三度ナカラハシメヨリスヘテ国師ノ所在所念身心ヲシラサルユヘニ叱スルナリ（他心　十五35オ8～ウ2・下110 11

(70) 鎖ス（1例・他ヲ）　未1（リ1）

・ミナ門ヲ鎖セリ（安居　十五9ウ6・下81 10）

これもトザセリとよみたくなる例であるが、他のもの同様漢語サ変動詞と考へるべきである。

(71) 坐ス（20例・自）　未7（ズ3　リ1　シ1　シム1　バ1）　用4（中止2　テ2）　止4（断止1　ヤ3）　体5（連体法3　ニ接1　中止1）

（終止形の例）　ヤ下接例

・坐裏ニ坐スヤ身心裏ニ坐スヤ坐裏身心裏等ヲ脱落シテ坐スヤ（三昧　十四2ウ2〜3・下139〜10）

（連体形の例）　中止形

・寒炉ニ炭ナクヒトリ虚堂ニフセリ涼夜ニ燭ナクヒトリ明窓ニ坐スルタトヒ一知半解ナクトモ無為ノ絶（↑純）学ナリ（行持上　三55ウ8・中342）

右の連体形の例は、坐スルで一旦文を中止してをり、坐スルに率ゐられる文が下文の主語になつてゐる。下文は、上の文を受けて、「ソレハ……」といつた気持の文となつてゐる。

(72) 散ズ（2例・他ヲ）　用1（テ1）　止1（ベシ1）

（終止形の例）　ベシ下接例

・未散トイフハイカナル道理カアル風火ノアツマレリケルカ散スヘキ期イマタシキト道取スルニ未散トイフカ（仏性　一31ウ1・上342 14）

(73) 参ズ（35例・自22ニ・他13ヲ・ト）　㊀　未2（ム2）　用11（中止1　テ9　キ1）　止5（断止4　ト1）　体4（連体法2　ナリ1　ニ接1）　㊁　未5（ズ5）　止6（ベシ6）　体2（カ中止1）

（自動詞）

（連用形の例）　テ下接例

・ツキニ雪峯山ニノホリテ真覚大師ニ参シテ昼夜ニ辦道ス（一顆二16ウ8・上897）

自動詞の例は「…ニ参ズ」が大部分である。

（他動詞）

（未然形の例）　ズ下接例

・シカアルニ仏法ヲキカス仏道ヲ参セサル愚人イハク澡浴ハワツカニミノハタヘヲスヽクトイヘトモ身内ニ五臓六腑アリカレラヲ一〻ニ澡浴セサランハ清浄ナルヘカラス（洗面　十34オ10・中295 5）（乾脱）

（連体形の例）　中止形

・夢中説夢ハ夢中説夢ヲ夢中説夢ト参スルスナハチコレ値仏ノ慶快ナリ（夢中　六4ウ8・中134 5）

参ズの他動詞の例は他にあまり例をみないが、参じきはめるの意である。

(74) 死ス（4例・自）　用1（テ1）　止3（断止2　トモ1）

（終止形の例）　トモ下接例

・海カレテナホ底ノコリ人ハ死ストモ心ノコルヘキカユヘニ不能尽

(61)向ス（1例・自）　体1《中止1》

・真如ヲ背スルコレ邪ナリ真如ニ向スルコレ邪ナリ（空花　三30オ5・171 14）

この用法は、右掲用例中の「背スル」の用法と同様、連体形による中止法で、それぞれコレによつて受けられてゐる。

(62)抗ス（1例・他ヲ）　用1《テ1》

・非想非非想ノ骨体アリコレヲ抗シテ学道スルノミナリ（身心　一38オ2・中128 14）

これは「拳」の意である。

(63)孝ス（1例・自ニ）　未1《ム1》

・タトヒ千万年ノヽチナリトモ法眼禅師ニ孝セン人ハコノ法眼宗ノ称ヲ称トスルコトナカレ（仏道　九40オ2・中227 4）

孝スといふ動詞は他にあまり例をみない。「孝ヲス」の意を一語のサ変動詞化したもので、造語としてはさほど無理はない。なほ、国語辞典、古語辞典類で、孝スは掲げられてゐないが、ついでながら「孝行ス」もない。「孝行する」とはよく使はれるものであるが、大抵の辞書は、「孝行」には、名詞と形容動詞「孝行だ」が示されてゐるばかりで、動詞が採用されてゐないのは不審である。

(64)搆ス（1例・他ヲ）　体1《準体的用法単独1》

・祖道ノホカニ袈裟ヲ搆スルアリトモイマタ枝葉トユルス本祖アラス（伝衣　七26オ10・上211 2 称スル）

他本いづれも称スルとあり、おそらく、これは乾本の誤りであらう。搆は構と通じ用ゐられることが多いが、本来は別字で、ヒクの意である。

(65)講ズ（5例・他ヲ）　体5《連体法2　ナリ1　ニモ2》

・講経ハカナラス虚空ナリ虚空ニアラサレハ一経ヲモ講スルコトヲエサルナリ心経ヲ講スルニモ身経ヲ講スルニモ虚空ヲモテ講スルナリ（虚空　十四30ウ7～8・下69 13～14）

(66)号ス（2例・他ヲ）　止1《断止1》　体1《連体法1》

（終止形の例）　断止

・祖師ヲ禅祖ト称ス学者ヲ禅師ト号スアルイハ禅和子ト称シ或禅家流ノ自称アリ（仏道　九29オ1・中215 15）

(67)告ス（1例・他）　用1《テ1》

・老非人マタ今百丈ニ告シテイハク乞依亡僧事例（大修　十四13オ5・下60 9）

この語も他の用例は管見に入らない。ツグ（告ぐ）あるいはマウス（申す）といつても全く同意である。

(68)混ズ（2例・他）　止2《ベシ2》

・シカアリトイヘトモ賢ニシテソシリヲマネクト偽ニシテホマレアルト三察スルトコロ混スヘカラス（仏道　九35ウ8・中223 1）

(69)作ス（1例・他ヲ）　体1《ニ接1》

・使用スルニ活鰒ミナリ龍ヲ作スルニ禹門ノ内外ニカヽハレス（坐箴　三14オ1・上407 14）

（終止形・連体形の例）　ト下接・ナリ下接例

・イマ衲僧ヲ験ストイフハ古仏ナリヤト験スルナリ（眼睛　十二17オ6・中365 6）

(56) 現ズ（13例・自9・他4ヲ）㊀未3《ズ2　リ1》　用1《中止1》　止2《断止1　ト1》　体3《連体法1　ナリ2》㊁未1《リ1》　用2《中止1テ1》　止1《ベシ1》

（自動詞）

（未然形・終止形の例）　ズ下接・ト下接例

・此土ニ現ストイヘトモ他土ニ現セス（神通　八5ウ3～4・上379 10～11）

（他動詞）

（未然形の例）　リ下接例

・愚者オモハク尊者カリニ化身ヲ現セルヲ円（↑日）月相トイフトオモウハ仏道ヲ相承セサル党類ノ邪念ナリ（仏性　一19ウ5・上327 10）

この語も、自他両方の用例がある。

(57) 居ス（6例・自）　未1《リ1》　用2《中止1　テ1》　止3《断止2　ベシ1》

（未然形の例）　リ下接例

・十八種ノウチ楊枝ステニ第一ニ居セリ（洗面　十42ウ7・中304 14）

(58) 挙ス（63例・他ヲ）　未4《ズ1　リ1　ラル2》　用49《テ44　動詞5》　止1《断止1》　体8《連体法2　ナリ5　ニ接1》　已1《バ1》

（未然形の例）　ラル下接例

・霊山釈迦牟尼仏ノ安居ノ因縁クハシク挙セラルキクモノナミタヲナカスオホシ（諸法　九25ウ2・中244 4）

（連用形の例）　テ下接例

・身心ヲ挙シテ色ヲ見取シ身心挙シテ声ヲ聴取スルニシタシク会取スレドモカヽミニカゲヲヤトスガゴトクニアラズ（現成一2ウ5・上83 12）

右掲の未然形の例は、眼蔵においてラルが尊敬を表はす数少ない例の一つである。連用形の用例が多いが、大部分が挙シテとなつてをり、動詞が下接するものとしては、キタル4例、ヲハル1例である。

(59) 期ス（8例・他ヲ）　未7《ズ7》　体1《結1》

（未然形の例）　ズ下接例

・カナシムヘシカレラ道器ナル人身ヲウケナカライタツラニ教網ニマツハレテ透脱ノ法ヲシラス跳出ノ期ヲ期セサルコトヲ（嗣書　八33オ5・上240 7）

（連体形の例）　結

・イカニシテカ作仏セントイフハイカナル作仏ヲカ期スルトイフナリ（仏性　一15ウ9・上323 2）

未然形の例すべてがズを下接させてゐるのが興味深い。

(60) 幸ス（2例・自）　用1《テ1》　止1《断止1》

（連用形の例）　テ下接例

・帝者オホク山ニ幸シテ賢人ヲ拝シ大聖ヲ拝問スルハ古今ノ勝躅ナリ（山水　六23ウ6・上227 4）

・シカウシテノチマタ沐浴シテマタ薫ス（洗面　十37オ3・中298 9）

(49)**群ス**（3例・自）　未2（ズ2）　止1（ベシ1）

（未然形の例）　ズ下接例

・除覚支ハモシミツカラカナカニアリテハミツカラト群セス他ノナカニアリテハ他ト群セス（分法　十二34オ9・下26 13～14）

意味は明瞭であるが、他にあまり用例を見ないものである。

(50)**化ス**（24例・自12・他12ヲ）　㊀未3（ズ2　リ1）　用2（テ2）　止3（断止1　ト1　ベシ1）　体3（連体法2　ナリ1）　已1（ドモ1）　㊁未3（シ2　バ1）　用4（中止4）　止3（断止3）　体2（ヲ1　ニ接1）

（自動詞）

（連用形の例）　テ下接例

・イタツラニ塵土ニ化シテ人ニイトハレン髑髏ヲモテヨクサイワイニ仏正法ヲ行持スヘシ（行持下　四10ウ9・中50 1）

（已然形の例）ドモ下接例

・未転トイフハタトヒ能断ト変ストモタトヒ所断ト化スレトモカナラスシモ去来ノ蹤跡ニカヽハレス（仏性　一18オ4・上325 12）

自動詞の例は「…ト化ス」（3例）、「…ニ化ス」（9例）である。意味は「…となる」の意である。右の已然形の例は、ドモに接してゐるが、仮定条件である。

（他動詞）

（未然形の例）　バ下接例

・法眼モシイマヲ（↑タ）化セハイマノ妄称法眼宗ノ道ヲケツルヘシ（仏道　九39ウ9・中227 2）

他動詞の場合の意味は、「教化する」「化導する」意である。自他別語とすべきかもしれないが、他の例の処置にならひ一語の用法としておく。

(51)**礙ス**（7例・他ヲ）　未4（ズ1　ラル3）　止1（ト1）　体2（連体法1　ナリ1）

（未然形の例）　ラル下接例

・栢樹ハタトヒ栢樹ニ礙セラルトモ生ハイマタ死ニ礙セラレサルユヘニ学道ナリ（身心　一37オ10～ウ1・中128 3～4）

他にあまり例をみぬ語である。眼蔵においては「罣礙ス」といふ語もかなり用ゐられるが、これとほぼ同様の意で用ゐられてゐる。妨げるの意である。

(52)**計ス**（2例・他ヲ）　未2（リ1　バ1）

・コレヲ仏法ト計セルヲモテハカリシリヌ仏祖ノ大道イマタ参究セストイフコトヲ（自證　十四26オ4・下52 5）

(53)**決ス**（2例・他ヲ）　未1（ム1）　止1（ベシ1）

（未然形・終止形の例）　ム下接・ベシ下接例

・依教ノ正不ヲ決セントオモハンハ仏祖ニ決スヘキ也（仏教　七39オ6～7・上366 7）

(54)**検ス**（1例・他ヲ）　用1（テ1）

・コノユヘニ南洲北洲ノ面目アリコレヲ検シテ学道ス（身心　一38オ1・中128 13）

(55)**験ス**（2例・他ヲ）　止1（ト1）　体1（ナリ1）

・安モ上モ頭々ナルト参スヘシ究スヘシ（夢中　六5オ4・中134 9）

これは参究スを参ズと究スに分割したものである。

(40)経ス（2例・他）用1《中止1》　止1《断止1》

（連用形・終止形の例）　中止法・断止

・在衆辨道功夫坐禅モトヨリ頭正也仏経ナリ尾正也仏経ナリ菩提葉ニ経シ虚空面ニ経ス（仏経　十15オ2・中257 12）

この語は特殊な用ゐ方である。経（キョウ＝経典の意）を動詞としたもので、経（フ）とは無関係である。さきの儀スと似てゐる。これは「菩提樹の葉に経文を書いて仏経とし、虚空に経文を書いて仏経とする」の意である。

(41)狂ス（1例・自）　体1《ニ格1》

・イマ現在大宋国ノ律学ト名称スルトモカラ声聞酒ニ狂スルニヨリテオノレカ家門ニシラヌイエヲ伝来スルコトヲ慚愧セスウラミス覚知セス（伝衣　七22ウ6・上207 2・酔狂スル）

他本では「酔狂スル」とある。龍門寺本では「酔」字補入、正法寺本も上欄外の後補である。

(42)行ズ（13例・他ヲ）　未4《ム1　シム3》　用1《中止1》　止2《断止2》　体6《ナリ4　ハ2》

（未然形の例）　シム下接例

・行仏ノ去就コレ果然トシテ仏ヲ行セシムルニ仏スナハチ行セシム（行仏　二3ウ10～4オ1・上347 5～6）

（連用形・終止形の例）　中止法・断止

・経ハ或ハ経函ナカラ行シ或ハ盤子ニ安シテ行ス（看経　六32ウ2・上310 3～4）

後の例の行ズの意味はオコナフに相違はないが、この場合は、「経」を「運ブ」ことをいふ。

(43)吟ズ（1例・他）　用1《テ1》

・オホエスシテ夢中ニ吟シテイハク未跨船舷好与三十棒（嗣書　八39ウ4・上246 11）

(44)具ス（8例・他ヲ）　未2《ム2》　用3《中止2　テ1》　止2《ト1　ベシ1》　体1《連体法1》

（連用形の例）　テ下接例

・威儀ヲ具シテ師ノ堂ニ参ス（陀羅　十29オ6・中288 6）

(45)救ス（1例・他ヲ）　未1《ズ1》

・トキニ菩提流支ノ訕謗ヲ救セス（行持下　四3ウ4・中41 13）

(46)供ズ（2例・他ヲ）　止1《断止1》　体1《準体的用法単独1》

（連体形の例）　準体的用法

・シルヘシ古仏ヲ供スルト古教ヲミルト福徳斉（↑斎）肩ナルヘシ（看経　六31オ10・上308 15）

この例で下接してゐるトは並列を表はすもので右の供ズルは下文のミルと共に「供ズルコト」「ミルコト」の意のものである。

(47)焼ズ（1例・他）　用1《中止1》

・ヌレシメレレランハ火ニ焼シ日ニホシテカワカスヘシ（洗面　十38ウ9・中300 11）

(48)薫ズ（3例・他）　止2《断止2》　体1《ナリ1》

(34)儀ス（1例・他ヲ）　未1《リ1》

・コノ入室ノ儀ハ諸法ニイマタアラスタヽ先師天童古仏ノミコノ儀ヲ儀セリ（諸法　九25ウ10・中244 9）

この語も一般にはサ変動詞として用ゐないものであり、さきの貴スと性質は異なるが、これも「儀トス」の意と考へられる。

(35)擬ス（39例・他ヲ・ニ・ト）　未8《ム5　ラル2　バ1》用2《中止1　動詞1》　止5《断止1　ト1　ベシ3》　体23《連体法9　ハ2　モ1　ナリ2　ノミナリ1　ニハ2　ガ1　ニ接4　中止1》　已1《バ1》

（未然形の例）　バ下接例

・仰山モシ開口ヲ擬セハ一喝ヲアタフヘシ（他心　十五33オ8・下108 12）

（連体形の例）　モ下接例

・拝不肯ナラント擬スルモアリ（礼拝　六13ウ1・上124 2）

。ニ接下接例

・シカアレバコレヲ挙シテ報謝ニ擬スルニ不道ナルヘシ（行持下四13オ10・中52 14）

。ニハ下接例

・若将耳聴終難会ハタトヒ天耳ナリトモタトヒ弥界弥時ノ法耳ナリトモ将耳聴ヲ擬スルニハ終難会ナリ（無情　十10オ7・中277 6）

（已然形の例）　バ下接例

・天堂ニイラント擬スレハ天堂スナハチ崩壊ス（仏向　五38ウ4・上417 2）

この語は「…（セ）ント擬ス」の形で多く用ゐられてゐる（18例、但し、同じ形で「…ヲ…ニ（ト）擬ス」の意のもの4例あり）。また、「…（セ）ント擬ス」の文型でなく、右の第一例・第四例のやうに「…ヲ擬ス」の形でも同様の意を表はすものがある（6例）。「…（ヲ）…ニ（ト）擬ス」の文型では、トとなるもの8例、ニとなるもの7例である。

(36)掬ス（2例・他ヲ）　未1《ム1》　用1《テ1》

（未然形の例）　ム下接例

・一手ニテ揖スルニハ手ヲアホケテ指頭スコシキカヽメテ水ヲ掬セントスルカコトクシテ頭ヲイサヽカ低頭セントスルカコトク揖スルナリ（洗浄　十一23ウ9・上111 12）

(37)喫ス（6例・他ヲ）　未2《ズ1　ム1》　用2《動詞2》　止1《断止1》　体1《連体法1》

（連用形の例）　動詞下接例

・イカニイハンヤ向上ノ関棍子ヲシランヤ仏祖ノ茶飯ヲ喫シキタルトイヒカタシ（説心　九・9ウ5・中207 5）

もう一例の下接動詞はヲハルである。

(38)休ス（5例・自）　未1《ズ1》　用1《中止1》　体3《連体法1　ナリ2》

（未然形の例）　ズ下接例

・道元コノコトハヲキヽシヨリモトムル心サシ日夜ニ休セス（嗣書八38ウ3・上245 11）

(39)究ス（1例・他）　止1《ベシ1》

互換セス一盂在世ニ換セス（行持上　三40ウ10・中176互換セ）

他本では「互換」とある。換セズで不可ではないが、対句的表現からみて「互換」とあるべきものであらう。

(26)灌ス（1例・他ヲ）　体1《ニ接1》

・昔日チヽノクラキニ（乾脱）ノホリシコトヲ罰シテ一頓打殺シテ後花園ノナカニオキテ不浄ヲ灌スルニ復生ス（行持上　三58オ7・中3612）

(27)感ズ（5例・他ヲ）　止2《断止1　ト1》　体3《連体法1　ナリ1　ニ接1》

（終止形の例）　断止

・大梅祖師キタリ開花セル梅花一枝ヲサツクル霊夢ヲ感ス（嗣書八40オ10・上2477）

(28)観ズ（5例・他ヲ）　未1《ラル1》　体4《連体法2　ナリ1　ニハ1》

（未然形の例）　ラル下接例

・有漏智無漏智本覚始覚無覚正覚等ノ智ヲモチキルニハ観セラレサルナリ（仏性　一12オ3・上3187）

(29)願ス（1例・他ヲ）未1《ム1》

・梵刹ノ現成ヲ願センニモ人情ヲメクラスコトナカレ（行持下　四17ウ8・中5713）

(30)記ス（7例・他ヲ）　未4《リ4》　用1《テ1》　止1《ベシ1》　体1《ニ接1》

（未然形の例）　リ下接例

・コノユヘニ古来ヨリ近代ニイタルマテ坐禅銘ヲ記セル老宿一両位アリ（坐箴　三11ウ10・上40512）

シルスと読めばよめるものであるが、これも眼蔵においては漢語サ変動詞として用ゐてゐる。他にも同様のものが若干ある。

(31)貴ス（2例・他ヲ）　体2《連体法2》

・遠ヲ貴スルコトナカレ遠ヲ賤スルコトナカレ（坐箴　三6オ7・上3997）

特に奇とする用法ではないが、貴スは国語のサ変動詞としては珍しい語である。元来「貴」には「たふとぶ」の意があるが、国語では、その際は「貴トス」とするのが一般的である。これは右の例文中の賤スについても同様である。

(32)帰ス（7例・自ニ）　未2《シム2》　用1《中止1》　体3《ナリ2　中止1》　已1《バ1》

（連体形の例）　中止形

・ソレヨリコノカタ西天二十八代東土ノ諸代ノ祖師ノ会ニキタリテ正法ニ帰スルミナオノツカラ北面ノ礼拝スルナリ（陀羅　十32オ7・中2919）

右の文は「帰スル」で一旦中止してゐる。「…帰スル場合ニハ」の意である。連体形が接続句を構成する用法の一例である。

(33)起ス（1例・自）　用1《テ1》

・南泉イマシニ起シテトフ（栢樹　八43ウ2・中10510）

オキテといはずに起シテとしてゐる点に注意すべきである。

塵ヲ学スルモノヽカレス尽界ヲ学スル也（諸悪　七9ウ9・上155 6）

・枯木ハ朽木ナラントオモヘリ不可逢春ト学セリ（龍吟　十三2オ8・中377 8）

（連用形の例）　ツ下接例

・風火等ノナカニ所生長ノ百草万樹オホヨソ有情ト学シツヘキアリ無情ト認セラレサルアリ（無情　十4ウ7・中271 12）

。動詞下接例

・イカニアルヘシトカ学シキタレル（光明　三35ウ10・中116 2）

（終止形の例）　ト下接例

・無住未至已滅等ヲ過未現ト学ストイフトモ未至ノスナハチ過現未ナル道理カナラス道取スヘシ（授記　五11オ4・中89 8）

。トモ下接例

・タトヒ打車ノ法アルコトヲ学ストモ打牛ト一等ナルヘカラス（坐箴　三8ウ7・上402 2）

。ベシ下接例

・シルヘシ学スヘシイマハイカナル時節ニシテ無仏性ナルソ（仏性　一14ウ6・上321 9）

（連体形の例）　準体的用法

・コレラノ心ヲ放下シテ学スルアリ（身心　一32ウ8・中121 13学道スル）

。ナリ下接例

・仏道ヲ学習スルニシハラクフタツアリイハユル心ヲモテ学シ身ヲモテ学スルナリ（身心　一32ウ3・中121 6）

。ガ下接例

・コノ時コノ有ハ法ニアラスト学スルカユヘニ丈六金身ハワレニアラスト認スルナリ（有時　四65ウ3　上161 14）

。ト下接例

・心ヲモテ学スルトハアラユル諸心ヲモテ学スルナリ（身心　一32ウ3・中121 8）

。ニ接下接例

・月ハ円形ナリ円ハ身現ナリ円ヲ学スルニ一枚銭ノコトク学スルコトナカレ（仏性　一22ウ8・上331 9）

以上やや多くの用例を掲げた（愛スにみられない用法のものを主として掲げた）。学スは漢字一字のサ変動詞のうち最多用例をもつが、已然・命令両形の用例はない。前記のやうに、未然形はズ下接の用法が主たるものである。連用形の動詞下接例の動詞はすべてキタルである。終止形ではベシ下接が主たる用法であり、命令形の表はすべきものは、終止形＋ベシによつて充たされてゐる。連体形の用例中に一例みられるト下接例は終止形の代用である。全体として、用例は多いが、特に珍しい用例とすべきものはない。

(24) 合ス（2例・他ヲ）　用2《テ2》

・コノ指血ニ曹谿ノ指（↑精）血ヲ合シテ書伝セラレケルト相伝セリ（嗣書　八40ウ7・上247 13）

(25) 換ス（1例・他）　未1《ズ1》

・王宮ニカヘラス国利ヲ領セス布僧伽梨ヲ衣持シ在世ニ一経スルニ

8～10、上320 9～10）によるものである。「是ヲ何ス」とは「是を何とする」の意で、この「是」「何」は、本文の前後参照の上、御了解願ひたいが、一言いへば、「是」は特殊相、「何」は普遍相をいふものとでもいへるであらう。この用法は、眼蔵における語法として、特に注意すべきものである。同様の用法が、漢語サ変動詞の中にも、他に若干例みられる。

(17) 呵ス（2例・他ヲ）　未1（ズ1）　止1（ベシ1）

（未然形・終止形の例）　ズ下接・ベシ下接例

・前両度モカツテイマタミサルコトヲ呵スヘキヲ呵セス（他心　十五33ウ10・下109 7）

(18) 臥ス（3例・自）　未2（リ2）　用1（中止1）

（未然形の例）　リ下接例

・大潙アルトキ臥セルニ仰山来参ス（神通　八3ウ4・上377 12）

(19) 賀ス（1例・他ヲ）　止1（断止1）

・同安居ノ理致ヲ賀ス（安居十五18ウ8・下91 8）

(20) 画ス（33例・他ヲ）　未12（ズ5　ム3　リ4）　用3（中止3）　止4（ベシ4）　体14（連体法6　ナリ1　ハ1　ニハ5　ニ接1）

（未然形・連用形・連体形の例）　ム下接・中止法・連体法・ニ接下接例

・大宋国ムカシヨリコノ因縁ヲ画セントスルニ身ニ画シ心ニ画シ壁ニ画シ空ニ画スルコトアタハスイタツラニ筆頭ニ画スルニ法座上ニ如鏡ナル（←リ）一輪相ヲ図シテイマ龍樹ノ身現ノ身現（三字術）円月相トセリ（仏性　一21ウ10～22オ1・上330 7～8）

(21) 開ス（4例・他ヲ）　用1（テ1）　止3（断止1　ベシ2）

（連用形の例）　テ下接例

・葛藤ヲモテ葛藤ニ面授シテサラニ断（←絶）絶セス眼ヲ開シテ眼ニ眼授シ眼受ス（面授　十一4オ6・中313 11）

特に注意すべき語ではないが、ヒラクといはず開スと漢語をそのままサ変動詞化して用ゐてゐるもので、他の三例も同様である。また、かかる用法の漢語サ変動詞が、他にもいくつか指摘できる。

(22) 劃ス（1例・他ヲ）　体1（連体法1）

・厠籌ヲモテ地面ヲ劃スルコトナカレ（洗浄　十一25オ6スル2字乾本脱・上113 7）

(23) 学ス（129例・他ヲ・ト）　未29（ズ19　ム3　リ4　シム2　バ1）　用16（中止法6　テ5　ツ1　動詞4）　止43（断止7　ト1　トモ4　ベシ31）　体41（連体法16　準体的用法単独1　ナリ10　ハ8　ガ格1　ト1　ニ接4）

（未然形の例）　ム下接例

・乃至諸余ノ時処モマタ〳〵カクノコトシ空花ヲ学センコトマサニ衆品アルヘシ（空花　三28オ3・中169 10）

○シム下接例

・オノ〳〵随他去アリコノトキ壁落コレ十方ヲ学セシム（身心　一34オ10・中124 2）

○リ下接例

・通ヲ学セルモノ通徹ノトキ万法ヲモミル一法オモミル（ママ）カユエニ一

詞の例と同様であるが、このヲは無視できない。和語でいへば、タガヒテとタガヘテの差に当らう。

(7)揖ス（11例・自）用2（中止1　テ1）止6（断止3　ベシ3）体3（ナリ1　ニハ1　ニ接1）

（連用形・終止形の例）中止法・ベシ下接例

・東司ニテハ直綴（↑綴）ヲ着セサルニモ衆家ト揖シ気色スルナリモシ両手トモニイマタ触セス両手トモニモノヲヒサケサルニハ両手ヲ叉シテ揖スヘシ（洗浄　十一23ウ6～7・上111 9～10）

右例にて意味は明瞭なやうに、挨拶の礼法である。

(8)印ス（1例・他ト）体1（連体法1）

・仏ニアラスヨリハタレカコレヲ最尊ナリトシ無上ナリト印スルコトアラン（嗣書　八30オ7・上237 6）

右の例が、小学館『日本国語大辞典』に「印可」の例として掲げられてゐるが、真筆本も「印する」とあり、意味は「印可」の意であるが、その用例として掲げるには不適当である。

(9)会ス（15例・他ヲ・ト）未10（ズ7　ム1　リ1　バ1）用3（中止1　テ2）止2（ベシ2）

（未然形の例）ズ下接例

・業識イマタ狗子ヲ会セス（仏性　一29オ7・上339 15）

・看転大蔵経ヲ遶禅床ト会セサルナリ（看経　六30オ7・上307 11）

(10)壊ス（2例・自）止1（断止1）已1（バ1）

（終止形・已然形の例）断止・バ下接例

・時モシ壊スレハ山海モ壊ス（有時　四67ウ10・上164 6）

壊スレバは仮定条件である。

(11)易ス（1例・他）止1（断止1）

・文宗継位スルニ一年トイフニ内臣謀而コレヲ易ス（行持上　三58オ3・中36 8）

(12)掩ス（3例・他ヲ）用2（テ2）止1（断止1）

（連用形の例）テ下接例

・モシ厠中ノ触セルコトアラハ門扇ヲ掩シテ触牌ヲカクヘシ（洗浄　十一27オ10・上116 3）

(13)縁ズ（2例・他ヲ・ニ）未2（ズ1　ム1）

・此心念モシナクハイカデカ鳴響ヲ縁セン（恁麼　四32ウ6・上427 3）

(14)応ズ（1例・自）未1（ズ1）

・十六指ヨリモナカキハ量ニ応セス（洗面　十40オ7・中302 4）

(15)加ス（1例・他）止1（断止1）

・袈裟モ（乾脱）無所従来ナリ無所去也我有ニアラス他有ニアラストイエト（ママ）モ所持ノトコロニ現住シ受持ノ人ニ加ス（伝衣　七21ウ1・上205 12）

(16)何ス（1例・他ヲ）用1（動詞1）

・四祖イハク是何姓ハ何ハ是ナリ是ヲ何シキタレリコレ姓ナリ何ナラシムルハ是ノユヘナリ（仏性　一14オ8・上321 1）

これについては、前にのべたことがある。[注6] これは、引用漢文中の「祖見問曰是何姓、師答曰姓即有不是常姓、祖曰是何姓」（一13ウ

・イタヅラニ生ヲ愛スル事ナカレ（仏性　一26ウ3・上336 7）

○準体的用法

・今ノ人ノ坐禅ヲ愛スルアルハ長慶ヲアケテ慕古ノ勝躅トス（行持下　四17オ4・中571）（乾脱）

○ハ下接例

・ヲモカラサル吾我ヲムサフリ愛スルハ禽獣モ其オモヒアリ（行持下　四23ウ2・中6313）

○ヨリ下接例

・前掲

愛スについては、右に、用法毎に一例づつ掲げた。なほ、右のうち、終止形断止の用例、乾坤院本には「愛」字を欠くが、前述のごとく、[注3]他本すべて「愛」字をもち、「愛」字を欠く場合、その構文が眼蔵中には、他に類例をみないものであることを合はせ考へると、乾坤院本の脱落とすべきであらう。連体形の準体的用法単独例として掲げたものは、一般に注釈書類で「今ノ人ノ坐禅ヲ愛スルアルハ、長慶ヲアケテ…」としてゐるが、むしろこの句読は「…愛スル、アルハ長慶ヲアケテ…」とすべきである。この場合、人ノのノは同格の用法（いはゆる指定格）で、「今ノ人デ坐禅ヲ愛スル人ハ、アル場合ニハ…」の意である。口語訳等では、この部分を適当にぼかしてゐる。「坐禅ヲ愛スルコトノアル者ハ」の意にとるものもあるが、さうではなからう。

(3) 安ズ（8例・他ヲ）　未2（リ2）　用2（テ2）　止4（断止4）

（未然形の例）リ下接例

・点心ハ経ヲ安セル擡盤ニ安排セリ（看経　六35オ4・上313 5）

(4) 庵ス（1例・自）　未1（シ1）[注4]

・芙蓉山ニ庵セシニ道俗川湊スルモノ僅数百人ナリ（行持下　四19オ9・中599）（乾脱）

(5) 位ス（1例・自）　用1（テ1）

・シルヘシ薪ハ薪ノ法位ニ位シチサキアリノチアリ前後アリトイヘドモ前後際断セリ（現成　一3オ8・上8411住シ）

この例は、他本いづれも「住」とある。「位」で不可ではないが、法華経方便品の「是法住法位世間相常住」（岩波文庫本上120頁）などと考へ合はせるともとは「住」であつた可能性が強い。

(6) 違ス（6例　自5ニ・他1ヲ）[注5]　㊀未4（ズ1　ム1　リ1　バ1）　用1（テ1）　㊁　用1（テ1）

（自動詞）

（未然形の例）ム下接例

・コレニ違センハ仏道ニアラス（洗面　十43オ7・中305 7）

（連用形の例）テ下接例

・アシイマタアユマサルモノ父ニトハス祖ニ違シチ立称シキタルナリ（仏道　九37オ3・中224 5）

（他動詞）

・ステニ両位ノ在世ニ称セサルヲ父祖ノ道ヲ違シテ瀉仰宗ト称スルハ不孝ノ児孫ナリ（仏道　十37ウ10・中225 2）

他動詞の例、もしこれが「父祖ノ道ニ違シテ」とあれば、他の自動

正法眼蔵のサ変動詞

――その用例――(三)

田島毓堂

(二) 用例

前稿[注1]で、七十五巻本正法眼蔵に用ゐられるサ変動詞の種類及び使用数を一覧した。以下、表示の順に用例若干を乾坤院本正法眼蔵によつて掲げ、注意すべきものについては、その都度注記していく。

1 漢字一字の場合

(1)扇ス（2例・自） 止2《断止2》

・門ニムカイテ両足ニ槽唇の両辺ヲフミテ蹲居シ嗽ス（洗浄 十一 25オ2・上113 4）[注2]

小学館刊行の『日本国語大辞典』には、この語を〔自サ四〕と登載してゐるが、サ変とすべきである。

(2)愛ス（19例・他ヲ） 未5《ズ4 バ1》 用2《中止1 テ1》 止5《断止1 ベシ4》 体7《連体法4 準体的用法単独1 ヨリ1 ハ1》

（未然形の例） ズ・バ下接例

・行仏ハ本覚ヲ愛セス始覚ヲ愛セス（行仏 二8オ5・上352 5～6）

・世尊モシ有言ヲキラヒ拈花ヲ愛セハノチニモ拈花スヘシ（密語 九49オ5・中250 12）

（連用形の例） 中止法

・在家ノソノカミ釣魚ヲ愛シ舟ヲ南台江ニウカメテモロ〳〵ノツリ人ニナラヒケリ（一顆 二16ウ4・上89 4）

○テ下接例

・コノコトハヲ雪峯コトニ愛シテイハクタレカコノコトハヲモタサラン（一顆 二17オ3・上89 11）

（終止形の例） 断止

・ヨノツネニ結跏趺坐ヲ愛ス（行持上 三57ウ5乾「愛」字脱・中 36 2）

○ベシ下接例

・彫龍ヲ愛スルヨリスヽミテ真龍ヲ愛スヘシ（坐箴 三6オ5・上 399 6）

（連体形の例） 連体法